

資質・能力の他領域での活用・発揮を目指す振り返りシートの工夫

実践場面

中学校第2学年

「説明的な文章で捉えた論理の展開の仕方を価値付ける場面」

ねらい

説明的な文章で学習した「論理の展開」を他領域でも「活用・発揮」することができるよう、「話すこと・聞くこと」「書くこと」も念頭に置きながら振り返りで価値付けるようにする。

【アイディアのポイント】

「論理の展開」は全領域で資質・能力に位置付けられている。そこで説明的な文章の読解を通して捉える「論理の展開の仕方」を、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の各視点からも価値付ける振り返りを行うことで、他領域でも「活用・発揮」できる、より汎用的な「資質・能力」として身に付けることを目指す。

教材名 モアイは語る

時 数 4時間

指導目標

◎文章の構成や論理の展開について考える。

(読むこと(1)工)

○文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えたことを広げたり深めたりする。

(読むこと(1)才)



単元計画

- 1 全文を通読し、文章の構成に着目しながら内容を捉える。
- 2 論理の展開を吟味する。
- 3 筆者の主張に対する考えをまとめる。
- 4 学習を振り返る。

※「2 論理の展開を吟味する」を受け、本単元のまとめを行う「4 学習を振り返る」の時間でアイデアを実施する。

【2 論理の展開を吟味する】

- 1 前時でまとめた筆者の主張を確認する。
- 2 筆者がイースター島の事例を示した理由について筆者の主張と関連付けながら考える。
- 3 「イースター島の事例」→「地球の未来」という「論の展開」について、「効果」の観点から話し合う。
- 4 本時の学習を振り返る。

通常、本時の振り返りは、
…「問い・根拠・主張」を分かりやすく
つなげる「論の展開の仕方」にすること
で、主張に説得力をもたせられる…
となる。



ねらいに据えた「論理の展開の仕方」
は、この振り返りにより価値付けら
れる。

しかし「資質・能力の活用・発揮」
という視点で考えたとき、生徒はこ
の振り返りで価値付けた「論理の展
開の仕方」という資質・能力を、国
語の学習のどの場面で、どのように
生かすのだろうか。



Aさん

【授業を終えて】
イースター島の事例があるおかげで、筆者の主張に対し「なるほどな」と思えた。ただそのためには、羅列するのではなく、何を事例として挙げることが大事だし、並び順も重要になるな。

【第2時の振り返り】
「話題提示」と「筆者の主張」の間に「イースター島の事例」が入ることで、筆者の主張が説得力をもつことが分かった。これから「話題（問い）+根拠（事実）+主張」の論理の展開に注意しながら説明文を読みたい。

【生徒のノートの一部】

◎話題提示

イースター島での出来事は地球の未来について大きな問題を投げかけている。

【イースター島の事例】

.....



時系列順

◎筆者の主張

有限の資源を効率よく長期にわたって利用することが人類が生き延びる道だ。

「論理の展開」を吟味する第2時の終末で行う振り返りとしてはこれで十分かと考えられる。しかし、終末の短時間では考えの全てを振り返りに反映させることは難しい。また、せっかく振り返りで価値付けした本時のねらい（資質・能力）だが、次の学習での活用・発揮を考えると、このままでは物足りない。

そこで第4時の学習で、次に使える形に再整理する振り返りを行う。

どのような点に着目すると「論理の展開の仕方」を学習に生かせるだろう

説明文を読むときに

- ・ 論理の展開を覚えておくと序論，本論，結論に分けられる。
- ・ 根拠のまとまりを確認できれば筆者の主張を見付けられる。

など

主張に説得力をもたせるために
「話題（問い）＋根拠（事実）＋主張」
でつなぐ「論理の展開」

意見文を書くときに

- ・ 事実をうまく使えば，自分の考えが伝わる文章を書くことができる。
- ・ 根拠の種類や並べ方にも着目すれば，説得力のある文章を書くことができる。

など

討論会をするときに

- ・ 適切な根拠を用いることで，自分の考えを明確に伝えることができる。
- ・ 根拠と主張とを結び付けて聞くことで，相手の意見を正確に捉えることができる。

など

※第４時で使用する振り返りシートの例